２０１７年（平成２９年）６月９日　金曜日

東奥日報新聞　１３面　掲載

粘りの継投 光星8強

明桜（秋田）の反撃かわす

第64回春季東北高校野球

高校野球

第１日

第64回春季東北高校野球大会は8日、開幕し、仙台市民球場と石巻市民球場で1回戦2試合、2回戦2試合を行った。県勢は八学光星（第3代表）が3投手による粘りの継投リレーで、秋田県第1代表の明桜を3―2で破って8強入り。青森山田（第1代表）は先発三上が好投したものの、打線が振るわず東陵（宮城県第2代表）に1―2で競り負けた。大会第2日の9日は仙台市民球場で聖愛（第2代表）が盛岡大付（岩手県第1代表）との初戦を迎える。（佐々木大輔、工藤俊介）

▽2回戦（仙台市民球場）

明桜（秋田）	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
八学光星	0	0	0	0	0	1	2	0	0	×3

（明）山口―岩城圭
（八）向井、福山、成田―齊藤、瀬川

▽二塁打　岩城圭（明）小池、花房（八）

▽暴投　山口（明）向井、福山（八）

【評】八学光星は1点を追う五回、先頭打者の花房が右中間に二塁打を放ち好機を演出。2者凡退の後、吉田の内野安打の間に、花房が好走を見せ追いついた。続く六回にも相手の失策などで2点を追加し、粘る明桜を振り切った。今季初登板となった先発向井は、制球に苦しみながらも5回を1失点に抑える好投。続く福山、成田が要所を締め、反撃をかわした。

【八学光星―明桜（秋田）】今季初登板ながらも明桜打線を５回１失点に抑える好投を見せた八学光星・向井―仙台市民球場

大黒柱 復帰戦で快投

光星・向井

ヒーロー

初先発。5回を1失点に抑え「迷惑を掛けた分、これからは『エース』として引っ張る」と力を込めた。

八学光星の頼れる3年生がマウンドに帰ってきた。腰の故障で長期離脱した向井が今季初登板で先発、腰を疲労骨折し、2カ月間投球することができなかった。軽いランニングや体幹トレーニングを繰り返し、体力を落とさないよう調整を続けた。

向井は昨秋、背番号1を背負い東北大会で粘投した。しかし、今年の春県大会で苦戦。福山ら2年生中心の投手陣が打ち込まれ、3位に甘んじた。

「投手陣の力不足」「仲井監督」という課題を抱えたまま迎えた東北大会初戦。最速140㌔台の直球がさえた向井は、プランクを感じさせない投球で相手打線をゴロや凡フライに仕留めた。

向井は予定通り5回を投げると、2番手福山に「強い気持ちで投げろ」と声を掛け降板。後を受けた後輩2人も好投し、向井の復帰初戦を勝利で飾った。

3人の継投がかみ合い、秋田県第1代表の明桜を退けて8強に駒を進めた。仲井監督は「向井が帰ってきたことでチームの士気も上がった」と満足そうだった。（工藤俊介）

主将が意地の安打

○…八学光星主将の1番吉田は五回、2死二塁の好機で同点に追いつく内野安打を放ち、勝利に貢献した。前の2打席は凡退していただけに「主将として絶対に打ちたかった」と奮起。当たりは悪かったが必死に走り、安打をもぎ取った。次は本県第1代表の青森山田を下した東陵（宮城）戦。「つなぐ野球で勝利をつかみたい」ときっぱり。

きょうの試合（県勢）

（左のチームが一塁側）

◇２回戦

▷仙台市民球場

聖　愛―盛岡大付（11・30）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです